

## II. 特別講演

## 「ゲノム医学研究における遺伝統計学」

新潟大学医学部医療情報部

赤澤 宏平

## 2 高度慢性呼吸不全合併胃癌患者に胃切除術を施行した一例

渡辺 真実・神田 達夫  
 丸山 聡・寺島 哲郎  
 平野謙一郎・中川 悟 (新潟大学大学院消  
 化器・一般外科)  
 西巻 正・畠山 勝義  
 遠藤 啓一・諏佐理津子 (同 呼吸器内科)

患者は在宅酸素療法を受けている63歳の男性。内視鏡により胃前庭部大弯のⅡa+Ⅱc型粘膜下浸潤癌と診断された。入院時の肺活量は1680 ml, 1秒量400 mlと高度の混合性呼吸障害を認めた。全身麻酔下に広範囲胃切除術を施行。再建はBillroth I法により行なった。術後1時間半で抜管し、直ちに非侵襲的間欠的陽圧呼吸 (BIPAP) を開始した。第1病日にICUを退室。第10病日BIPAPより離脱。第28病日転院となった。注意深い周術期管理を条件とすれば、高度慢性呼吸不全患者に対する胃切除術の適応を広げ得る可能性が示された。

## 第253回新潟外科集談会

日時 平成13年12月1日(土)  
 午後12時30分～4時58分  
 会場 新潟大学医学部  
 有壬記念館

## 一般演題

## 1 胃軸捻転を伴った傍食道裂孔ヘルニアの一例

島田 能史・小林 孝 (新潟臨港総合病院)  
 牧野 成人・松尾 仁之 (外科)

慢性胃軸捻転を伴った傍食道裂孔ヘルニアの診断で経過観察中に急性嵌頓症状を呈し手術を施行した一例を経験したので報告する。症例は59才男性、平成4年5月に上部消化管造影で慢性胃軸捻転を伴った傍食道裂孔ヘルニアと診断されたが症状なく経過観察されていた。平成13年5月18日に上腹部痛、嘔気、嘔吐が出現し5月25日緊急入院。上部消化管造影、CT、MRIで傍食道裂孔ヘルニア (upside down stomach) 嵌頓による急性胃軸捻転症と診断され、6月29日に手術を施行した。上腹部正中切開で開腹するとヘルニア門は直径5 cmで内容は胃、大網、横行結腸の一部であった。胃は前方より長軸性に捻転していた。内容物を腹腔内に還納した後、嚢を切除し欠損部はメッシュで修復した。術後経過は順調で、再発を認めていない。

## 3 肝膿瘍に対するドレナージ術後、胆管胃吻合部に発生した胃癌の一例

磯田 学・鈴木 聡  
 三科 武・角南 栄二  
 大滝 雅博・小向慎太郎 (鶴岡市立荘内病院)  
 遠藤 誠・松原 要一 (外科)

症例は70歳、男性。28歳時に胆嚢摘出術 (胆石症)、30歳時に肝膿瘍ドレナージ手術 (術式は不明) を施行された。13年5月食後の心窩部痛を主訴に来院し、胃癌の診断で当科入院。内視鏡では体上部前壁の3型の高分化型腺癌で、胃透視では左肝内胆管および総肝管が描出され、肝膿瘍に対して胆管胃吻合、総肝管十二指腸吻合術が施行されたものと考えられた。術中所見では胃前壁に左肝内胆管との吻合を認め、切除標本では吻合部を中心に胃側にほぼ同心円状に癌が存在した。術中の吻合胆管からの造影で総肝管の開存を確認し、遊離した左肝内胆管の結紮、切離および胃全摘術を施行した。術後の経過は良好であった。持続的な胆汁刺激による胃癌の発生を考える意味から、興味ある症例と思われた。